

学校群を中心としたマネジメント

第1回総合教育会議でいただいた意見のポイント

令和7年度から全中学校区で
「学校群を中心としたマネジメント」を実施するにあたり必要なこと

学校を応援してもらえる機運醸成

（主な内容）

- ・分かりやすい情報発信
- ・積極的な情報発信
- ・期待感をもってもらえるような工夫 など

教育委員会によるサポート

（主な内容）

- ・学校が取り組みやすく、継続できる工夫
（業務改善や伴走支援）

教育委員会としての取組（本日の総合教育会議で伝えること）

学校を応援してもらえる機運醸成

「学校群を中心としたマネジメント」を行う**必要性や目的、めざす姿を分かりやすくまとめる。**
また、**モデル学校群での実践内容や効果等を伝える。**

市民・保護者等への分かりやすい情報発信
（取組指針の作成・公表）

教育委員会によるサポート

**てびきの作成や、これまで出来なかったことが
できるよう、これまでのあたり前やルールを見
直し、**学校の実態に応じた対応ができるように
する。

学校群の仕組みをいかす工夫
（てびきの作成やこれまでのあたり前等の見直し）

1. 市民・保護者等への分かりやすい情報発信

- ・これまでの振返り（必要性、目的など）
- ・学校群の実践事例とポイント（効果など）

2. 学校群の仕組みをいかす工夫

- ・これまでのあたり前やルールの見直しに向けて
- ・中期的な展望（今後の予定）

～学校やこどもに関わる「身近な不安や悩み」～

（主な内容）

社会の変化

- ・学校はこれまでと同じでいいのか
- ・こどもが学ぶ内容はどうか

学校規模等の違い

- ・できることや対応の違い
- ・教員の経験を積む機会の違い

中学校進学への不安

- ・中学校ってどんなところなんだろう
- ・違う小学校の子と友だちになれるのか

～こどもたちが社会で自分らしく生きてくために～

『OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030』において、これからの先行きが不透明な社会を生き抜くこどもたちに必要な資質・能力として示された3つの力

新たな価値を創造する力

対立やジレンマに対処する力

責任ある行動をとる力

➡自ら考え、判断し、行動する力（こどもたち自身が探究的な学びを主体的にする）

これからの学校

学校教育のあり方も時代に応じて変化させることが必要

➡不登校や学力向上等、それぞれの課題に対して「短期的に個々に対応すること」と、個々の対応だけではなく様々な事象に対して状況に応じた適切な対応ができるよう学校運営の基礎力を高めるために「**中期的かつ総合的に学校の変革を推進すること**」を実施

＜ **学校群を中心としたマネジメント（新たな学校のあり方）** ＞

学校（園）

こどもや教職員の人数、立地、校区内にある資源、抱える課題など ➡ 多種多様

課題への対応方法

共通的な課題

個別的な課題

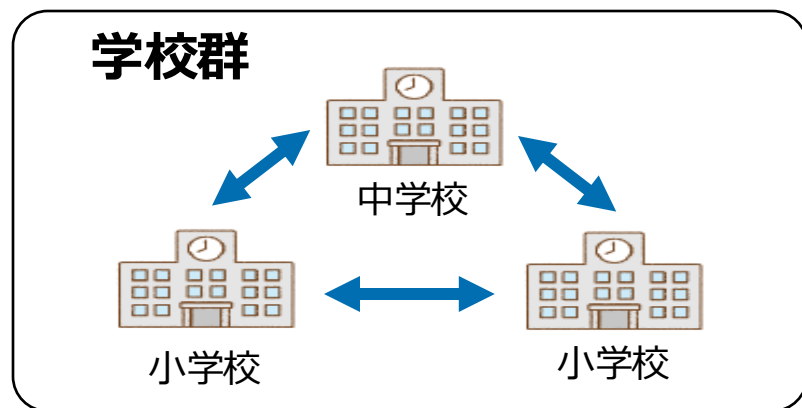
全市的な施策を進める

学校の実態に応じた対応を進める

教育委員会の方針に基づく対応が必要

各学校の自主的・自律的な対応が必要

学校の実態に応じて、それぞれの学校が自主的・自律的に対応できるよう、
全市的に**学校群を中心としたマネジメント（新たな学校のあり方）**を推進



中学校区の中の小学校と
中学校を1つのチームとし
て考えるのが、「**学校群**」



「小学校6年間」と「中学校3年間」ではなく、「**義務教育期間9年間**」のこどもたちの学びを小学校と中学校の教職員がいっしょに考えて、「**つながる教育**」を行います。

- 小学校・中学校9年間を見通したなかで学校群の課題や必要性に応じて、
- 「学校単位」ではなく「学校群単位（小学校と中学校を一つのチームで捉える）」で、
- それぞれの学校群が持つ「強み」や「資源」をいかして、
- これまで取り組んできたことをより深化させ、
- つながる教育を持続するための学校運営マネジメント



今、学校で取り組む様々な教育実践や教育課題に対して、
「学校群の仕組み」を使って、より円滑で柔軟に実施できるようにするもの

【総合的な学力とは】

- ①知識、技能
- ②思考力、判断力、表現力等
- ③学びに向かう力、人間性等

総合的な学力の育成

学ぶことを楽しみ、自ら学ぶことも

個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実
探究的な学びの充実

授業の改善

こどもの学び方
(こどもが学び方を自覚)

1人1台
パソコンの活用

教員の授業改善
(教員の役割)

カリキュラムの改善

9年間を見通した学校群教育目標の設定、連続性・系統性のある学校群小中一貫カリキュラムの編成

授業の改善、カリキュラムの改善を支える学校群を中心としたマネジメント

学校同士をつなぐ学校群組織体制の構築、学校群の資源のスケールメリットを生かした学校群運営、教職員の働き方改革

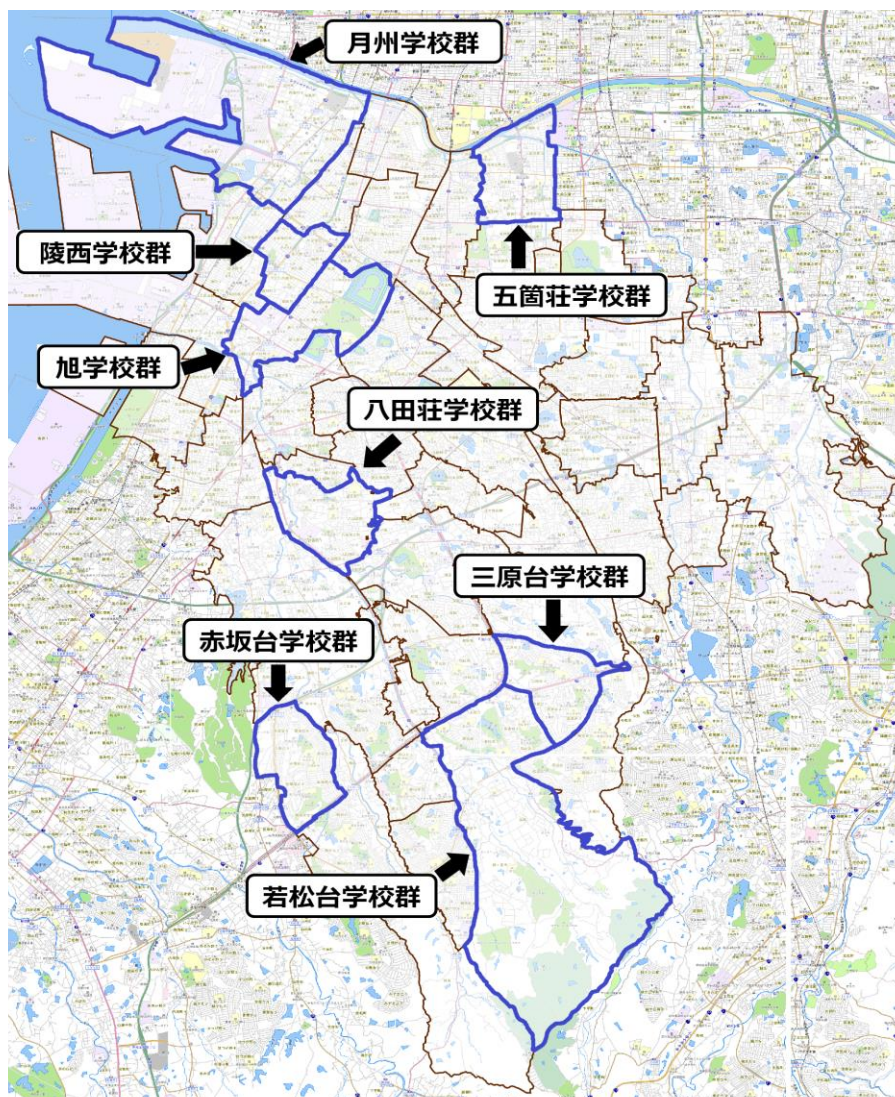
堺市が考える
身に付けてもらいたい力

|| (同じ)

令和の日本型学校教育
(国の動き)

日頃から常に行う必要がある「授業の改善」と「カリキュラムの改善」を行う際、**学校群を中心としたマネジメントを発揮することで、教職員個人や勤務する学校だけで考えるのではなく、もっと広い視点で考えられるようにするもの**

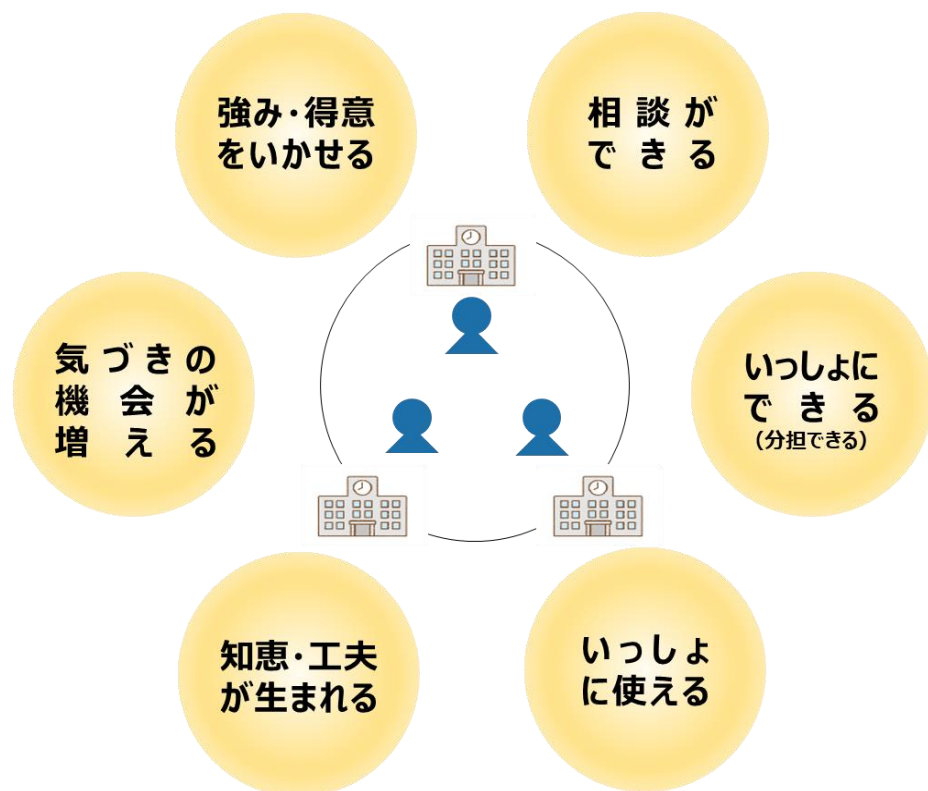
8つのモデル学校群



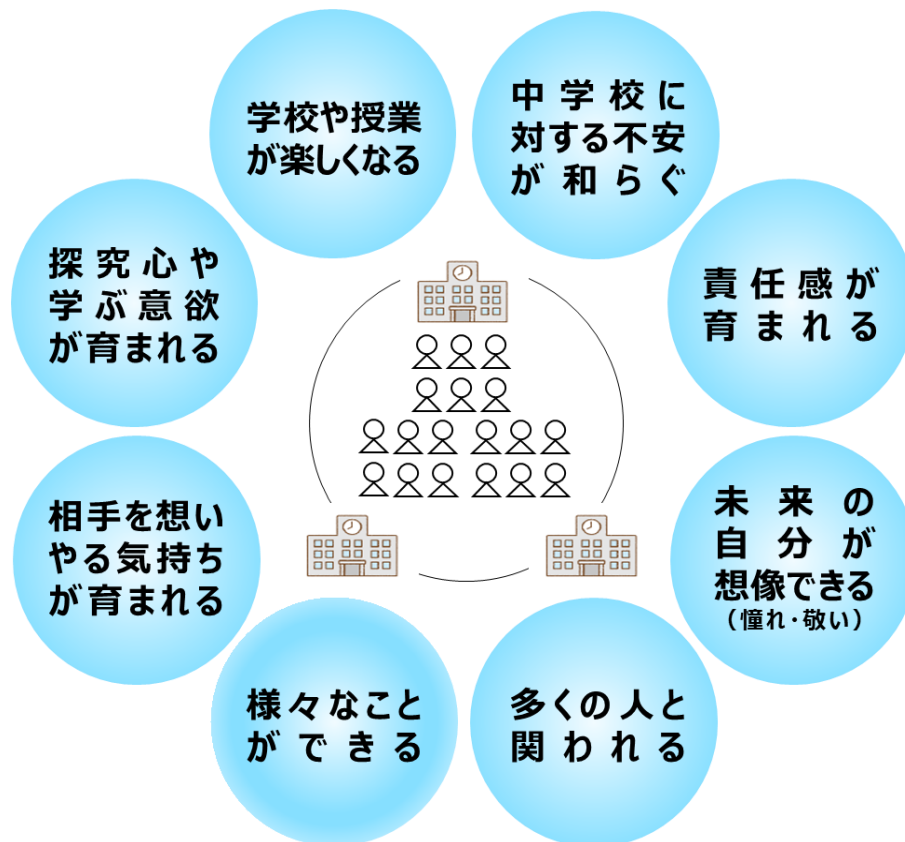
学校群・学校名		軸となるテーマ
陵 西	陵西中 少林寺小 安井小 大仙西小	人権教育・キャリア教育を中心とした 小中一貫教育体制の推進
旭	旭中 神石小 大仙小	地域資源を生かした子ども堺学を軸とした 9年間を見通した探究学習の充実
若松台	若松台中 上神谷小 若松台小 茶山台小	小規模校における教科担任制の導入、 小中一貫教育による学力向上
三原台	三原台中 三原台小 泉北高倉小	特別支援教育の視点に立った誰一人 取り残さない教育の実施
五箇荘	五箇荘中 五箇荘小 五箇荘東小 新浅香山小	学力向上に向けて9年間を見通した取組 実施
月 州	月州中 三宝小 錦西小 市小	9年間を見通した情報活用能力の育成に 向けた授業改善
八田荘	八田荘中 八田荘小 八田荘西小	互いを認め合い、支え合える集団づくりを めざした生徒指導体制の構築
赤坂台	赤坂台中 赤坂台小 新檜尾台小	総合的な学習の時間・道徳を中心とした 9年間を見通したカリキュラム・マネジメント

【モデル学校群】 小学校：20校/92校中、中学校：8校/43校中

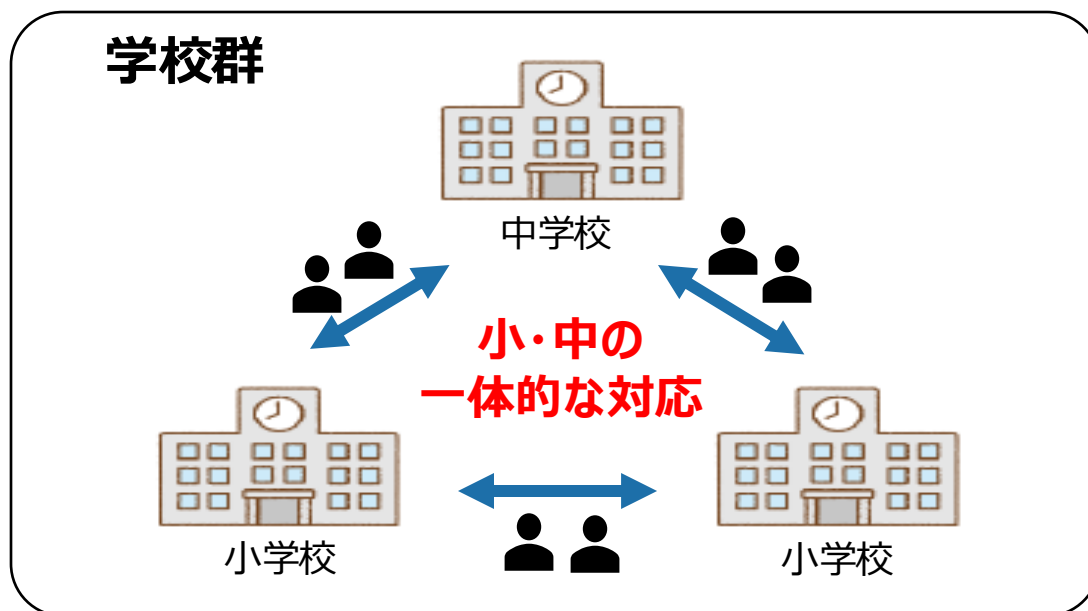
教職員の視点



こどもの視点



学校群の仕組みで実現できることを自分自身で**“実感”**してほしい



それぞれの学校に勤務する
教職員が、中学校区内の
小学校や中学校を往来

小学校と中学校、小学校と小学校
のつながりを深める

- 小学校と中学校**9年間を見通した「つなげる教育」**が実践できる
- 小学校と小学校の**連携が進み、教材の合同作成や共有、授業改善**ができる
- 自校以外のことを知ること**で教員同士の「気づき」**がめばえ、自身の授業や校務改善等、**多様なアイデアや工夫を知る機会**が得られる
- 学校群単位で**強みや資源をいかした授業や行事**を考えることで、自律した学習者の育成に向け、**より多様な教育活動が展開**できる
- 経験が浅い教職員や少数職種の**教職員の安心感が醸成**される



校区内に田んぼのない小学校のこどもたちが、田んぼのある小学校を訪問



中学校教員による小学6年生の保護者を対象とした高校の進路説明会



オンラインで別の小学校のこどもたちによる発表を観て、チャット機能も活用しながら感想を伝達



連合運動会※の前に学校群内の小学校同士の綱引き等の練習



**対話・コミュニケーションによる
「相互理解」**



中学校の英語科教員による小学校での英語の授業

これから (モデル学校群の取組から)

これまで
(一般的な対応)

教員がひとりで教材を
作成し、授業を進める。



実際に行われている授業（一例）

A校の教員

資料をファイルに入れておきましたので、
もし使えるところがあれば、ぜひ活用し
てください。

B校の教員

資料ありがとうございました。早速使わ
せていただきました。感謝です。

普段の教員同士の普段のやりとり
(実際のやりとりを一部加工)

- ▶ 学校群内の教員がいっしょに授業計画や教材の案を
考え、授業で使用する資料を共有する。
- ▶ 教員の強みや得意をいかした教材を活用することで、
個人の授業準備の負担軽減や質の高い授業が期待
できる。

教
職
員

強み・得意
をいかせる

いっしょに
できる
(分担できる)

いっしょ
に使える

こ
ど
も

学校や授業
が楽しくなる

探 究 心 や
学 ぶ 意 欲
が育まれる

これから (モデル学校群の取組から)

これまで
(一般的な対応)

学校単位で様々な
行事を企画・実施する。



キャンプファイヤーの準備をする教頭たち



熱中症対策をする教職員

- ▶ 学校群内の教職員がいっしょに行事の企画や準備を行い、実際の行事を行う。
- ▶ 大人数による行事の魅力向上や、小学校段階から中学校で出会う友だちとのつながりが生まれるなど、1つの学校ではできなかった取組を行う。

教職員

いっしょ
に使える

いっしょに
できる
(分担できる)

子ども

学校や授業
が楽しくなる

様々なこと
ができる

相手を思い
やる気持ち
が育まれる

これから (モデル学校群の取組から)

これまで
(一般的な対応)

学校ごとに、学校の
きまり（お約束）や
ルールを決める。



中学校の教職員が小学生に説明

学校群のお約束（抜粋）



①あいさつをしよう

ひととのつながりは、あいさつから始まります。

②授業の時間を大切にしよう

- ・みんなで楽しみながら深い学びができる時間にしよう。
- ・休み時間の間に、次の授業の準備をしよう。
- ・名札は左胸につけよう。



小学校から中学校まで同じものを共有

- ▶ 9年間でこどもの成長を見られるよう、共通の考え方を基に継続した取組を行う。
- ▶ こどもたちにとって、生活面でのきまりやルールの急激な変更がないことで、スムーズな中学校進学につながる。

教職員

いっしょ
に使える

気づきの
機会が増える

こども

中学校に
対する不安
が和らぐ

多くの人と
関われる

これから (モデル学校群の取組から)

これまで
(一般的な対応)

学校単位で様々な
行事を企画・実施する。



防災・減災の授業の一環で、
煙体験を行う小学生と中学生



小学生と中学生による
防災・減災に関するディスカッション

- ▶ 地域や関係機関と連携して、学校だけではできなかった取組を行う。
- ▶ 小学校と中学校のこどもたちが、同じ体験や話し合いを通じて、お互いが関わりながらいっしょに学ぶ。

教職員

いっしょに
できる
(分担できる)

強み・得意
をいかせる

気づきの
機会が増える

こども

未来の
自分が
想像できる
(憧れ・敬い)

様々なこと
ができる

中学校に
対する不安
が和らぐ

これから (モデル学校群の取組から)

これまで
(一般的な対応)

校内で研修を実施する。
また、各学校で対応を
考えて実践する。



オンラインを活用した教職員研修



小学校の給食準備を直接見て、
準備に備える中学校教職員

- ▶ 共通した内容をいっしょに考えて実践につなげる。
- ▶ 小学校と中学校のそれぞれの強みをいかした対応を行う。

教職員

気づきの
機会が増える

相談ができる

知恵・工夫
が生まれる

子ども

学校や授業
が楽しくなる

探究心や
学ぶ意欲
が育まれる

項目等		市民・保護者向け	学校向け
作成物	名称（案）	取組指針	学校群のてびき
	作成のねらい	学校の応援団になってもらう	全中学校区で「学校群を中心としたマネジメント」が実践できる
主な記載内容	施策の必要性	○	○
	施策の目的	○	○
	施策の位置づけ	○	○
	期待される効果	○	○
	実際の声・感想	○	○
	取組の事例	○	○
	めざす姿	○	○
	取組の手順・留意点	—	○ (主な内容) ・検討するための組織の作り方や構成 ・目標の設定に至るまでの手順 ・紹介する取組事例の準備工程

学校群を中心としたマネジメントがなぜ必要なのかを丁寧に説明することが大事

主な取組	時期
広報紙（広報さかい）での紹介	令和6年3月、令和7年1月
メディアの方々を対象とした合同取材会の開催 （新聞、地域情報誌、テレビ、SNS記事として取り上げていただきました）	令和6年11月
教育委員会ホームページでの紹介	常時
モデル学校群で行われる行事に合わせた学校からの紹介	適宜

● 堺が進める新たな学校マネジメント

市では、同じ中学校区内の小中学校を1つのチームとして考える学校群の取組を令和7年4月から実施します。今回は、モデル事業として先行実施している学校群の取組の一部を紹介します。

☑ 学校改革推進室（☎248-7011 F228-7890）



合同防災授業（赤坂台学校群）

新樟屋小学校の「地域と共に行う防災教育」の取組を学校群で共有し、防災・減災をテーマにしたカリキュラムの作成や合同防災授業を実施しました。当日は、消火器訓練や防災ディスプレイセッション、毛布避難、心肺蘇生（せうせい）などを行いました。



小学生の声

防災授業を通して、自分たちができることは何かを他校生・中学生と一緒に考える機会になりました。また、中学生と話す機会ができて、中学に進学するの楽しみになりました。

中学生の声

防災ディスプレイセッションでは、1つの目的に対して、皆で解決しようという姿勢が見えることができて、楽しい授業になりました。小学生と話す貴重な機会になっています。



新樟屋台小学校児童



赤坂台小学校児童

合同進路説明会（五箇荘学校群）

学校群内の小学校3校の6年生保護者を対象に小・中学校の教職員が協働して実施しました。説明会では、中学校入学前から中学生生活のことや高校入試制度などに関する情報をお伝えしました。



教職員の声

学校群の仕組みによって、これまでの小・中学校間や小学校同士の連携をより深めることができ、子どもたちに必要な力を育むための教育活動の選択肢が広がりました。



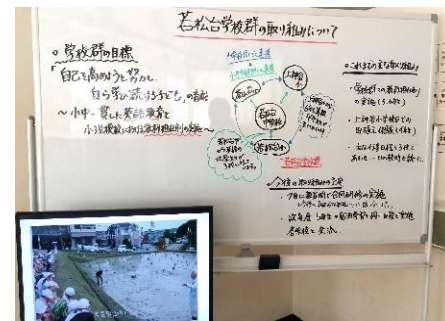
五箇荘中学校教員

保護者の声

先の見通しをもってから中学校に入学する方が入学してからの方が不安がなく、進学も安心です。年々変わる高校入試や進学判断の難化制度の紹介もあり、良かったです。



中学校教員による小学6年生の保護者を対象とした高校の進路説明会



授業参観に合わせて学校群の取組を紹介

1. 市民・保護者等への分かりやすい情報発信

- ・これまでの振返り（必要性、目的など）
- ・学校群の実践事例とポイント（効果など）

2. 学校群の仕組みをいかす工夫

- ・これまでのあたり前やルールの見直しに向けて
- ・中期的な展望（今後の予定）

学校のできることを増やす

学校群という小学校と中学校を一つのチームとして考えることで、選択肢を増やす

学校の裁量を広げる

学校群という仕組みを踏まえ、これまでのあたり前やルールを見直す

人の動きに関すること

学校群内で教職員を動きやすくする

学校群の取組を教職員に知ってもらうことで、働きたいと思う学校を見つけられる

お金の動きに関すること

小学校と中学校で予算をいっしょに活用する

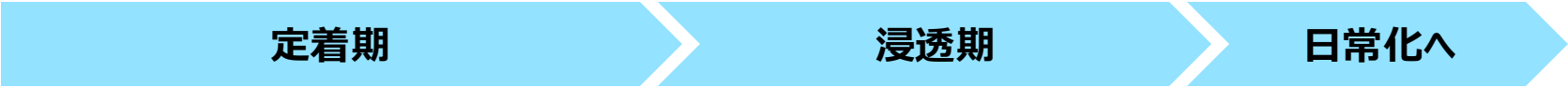
学校が提案したことを予算化する（現在は、配当された予算をどう使うか）

物の動きに関すること

使用頻度の低い物品等を共有する

物品の購入計画を学校群単位で考える

	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和13 (2031)
現モデル 学校群	取組の実施						
学校	・学校群推進組織の構築 ・学校群教育目標の設定 ・取組の検討	取組の実施					
教育振興 基本計画	～策定～	(仮称) 第4期 未来をつくる堺教育プラン 【期間：5年間】					



- 学校のできることを増やす
- 学校の裁量を広げる

自主性・自律性に富んだ
自立した学校へ